


なりきって読もう ～『くじらぐも』～

学習指導者 西吉 亮二

本単元では、『くじらぐも』からお気に入りの場面を選び、学級の友達に、その場面を声や動きを工夫して音読をするという言語活動を設定しました。登場人物になりきって、音読したいという思いを基に、登場人物と自分とを重ねて考えることで、楽しみながら登場人物の行動を具体的に想像していきました。

本時では、単元のゴールである音読を意識しながら3・4場面の登場人物の行動について、「声」「顔」「動き」「気持ち」の観点ごとに色分けした付箋を使って想像していきました。この付箋を使って交流することで、様々な観点から想像を広げたり、一つの観点でもより詳しく想像したりするなど、粘り強く考えていきました。豊かに想像を広げると、より、なりきって音読できることを感じながら、自ら進んで学びに向かう姿が見られました。



この文のときは、にこにこの顔で言っていると思うよ。

なるほど。僕は、怖がっている顔の子もいたと思うよ。

考察

○多様な観点で想像を広げていくことが、単元のゴールである音読をよりよくしていくことを理解しており、意欲的に多様な観点で想像を広げていた。

●想像したことについて交流する際に、質問する話型等を工夫することで、考えをより深める対話にすることができたのではないか。

●想像を広げたことが、音読の姿として表出されにくいことがあった。